



## 『角膜疾患（角膜炎・角膜潰瘍）』

角膜は眼球の一番表面にある膜です。角膜は常に瞬きをすることにより涙の膜で覆われ、乾燥して傷が付かないように保護されています。涙の膜が壊れ角膜に傷が付く状態を角膜炎といいます。角膜炎が悪化し角膜の傷がさらに深くなった状態が角膜潰瘍です。



## 症状

- ・膿のような色の付いた汚い目ヤニがたくさん出て眼の周りの毛が汚れます。
- ・結膜は赤く充血し、角膜は乾燥し、濁っています。
- ・濁った角膜には血管が入り込みます。

### 角膜炎が進行して角膜潰瘍になってしまった場合は・・・

- ・眼をしょぼしょぼさせたり、涙やけができるほど涙が多くなります。
- ・痛みの症状が強く現れます。
- ・汚い目ヤニがたくさん出ます。
- ・充血が角膜炎よりも強くなります。
- ・角膜の濁りや血管の侵入も強くなり、潰瘍の部分には凹みが見られます。



結膜が赤く充血している状態

## 原因

多くは涙が減少することによって起こります。

### 涙が減少する原因として・・・

- ・外傷などにより涙の膜が壊れる
- ・免疫の異常
- ・眼が出ているなどの顔の特徴で瞬きがうまくできない
- ・神経の異常で瞬きがうまくできない
- ・遺伝、感染、内分泌の異常など・・・

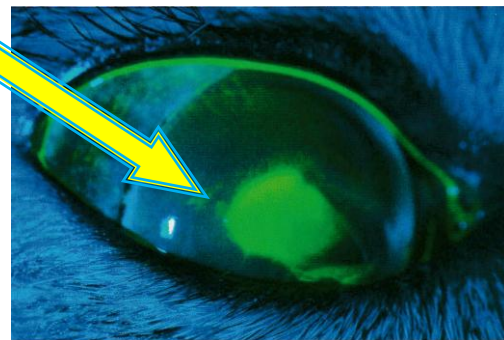
これらの原因で涙の分泌量が減少したり、角膜に傷を作る原因となります。



## 診断

傷の部分に染色液が残ります

- ・涙の量を測定します。
- ・目ヤニの検査を行い、どのような菌が原因か調べます。
- ・染色液を使って角膜の傷について調べます。
- ・角膜の傷の場所と深さを調べます。



## 治療

- ・涙を補う点眼薬と涙の分泌を促す点眼薬を使用します。
- ・感染がある場合抗菌薬の点眼薬や飲み薬を使用します。
- ・角膜潰瘍の場合は潰瘍治療の点眼薬を使用します。
- ・角膜潰瘍が角膜の厚さの半分以上の深さであれば、角膜が穿孔する可能性があるため、角膜の潰瘍を保護するための手術が必要です。



点眼薬は前からすると怖がりますので、顔を少し上げて、後ろから見えないようにして点眼しましょう。

## 予後

- ・涙の分泌が減少することによって起こる角膜炎は、涙液を補う点眼薬や分泌を促進する点眼薬を継続的に使用する必要があります。
- ・角膜炎や角膜潰瘍は、元の透明な角膜に戻ることはあまりありません。
- ・角膜の濁りは残りますが、角膜穿孔のなど重度の場合以外は眼が見えなくなることはあまりありません。
- ・角膜炎や角膜潰瘍は再発や悪化する可能性もあるので、定期的に診察を受けて下さい。



調子がよいからと点眼薬を勝手にやめないでね。



いつもより眼が赤い、目ヤニが多い、しょぼしょぼしているときは早めの診察を。

## 倉重獣医師のコラム

眼の表面に傷をつけて来院されるわんちゃん、ねこちゃんは結構います。草むらや布団、コタツなどの中から出てきたら目が閉じ気味になっている子や、他の子と遊んでいたと思ったら涙を流している子など、急に起こることも多いです。悪化すると大変なことになる場合もあるので、いつもとの違いを感じたときは注意されてください。